

「孫」よりへん

夜間中学校で学んだこと

私たちは、奈良・京都への修学旅行一日目の夜の活動で、
京都市の夜間中学校に行きました。

夜間の中学校というのは、いろいろな理由で学校に通えなかった方が、おとなになってから通う学校です。

生徒さんの多くは、私のおじいちゃんやおばあちゃんと
同じくらい年をとられている方たちでした。私たち六年生
が簡単にできるような問題でも、一生けん命に取り組まれ
ていました。授業中、

「ねえねえ、ここ教えて。」

と、何回も言われました。授業を
受けている生徒のみなさんは、と
ても楽しそうに、イキイキとして
いました。お年寄りの生徒の人た
ちに教えるのは、すごくきんちよ
うしたけれど、笑顔で話しかけて
下さったので、安心して話をし、
説明することができました。



京都市の夜間中学校

生徒さんは、文字の読み書きができなかったつらい経験
を話してくださいました。そして、

「年をとってから字を覚えようとしてもなかなか覚えられ
へん。」

と言いながらも、自分の名前を初めて書けるようになった
時の喜びや学校に通えるうれしさを本当に楽しそうに話し
てくださいました。私まで「笑顔」が自然と出てきました。

夜間中学校は、「笑顔」ができる所、「笑顔」が作られる所
だと私は思いました。私はある生徒さんが、

「孫に手紙を書きたいんや。」

と、話されていたことが一番に残っています。

私は、夜間中学校を見学して、「勉強は何のためにする
のか」と、考えさせられました。また、夜間中学校のみな
さんから、たくさんのことを教えてもらいました。いろい
ろなことで負けそうになっても、夜間中学校で学ばれてい
るみなさんのことを思い出して、私も自分の勉強を大切に、
がんばっていききたいと思います。

これは兵庫県内の小学校6年生が書いた作文です。(改編)

この作文は、七十五才で夜間中学校に入学し、はじめて文字を学んだ生徒が、七十八才の時に書いたものです。(原文)

学校

わたしにとって、学校はいきがいです。
そのしくてたのしくて、もし、学校にきて
なかつたらわたしはだめになつてます。
いまは、一字でもおぼえるのがうれしくて
たのしくてしかたありません。けれど、ひとつだけ
ざんねなことがあるんです。いまさうこ
のしになつて字をおぼえても、いまからでは
なんのやくにもたてられへんでしょう。そのことを
かんがえると、はかゆく、くやしくて、
ざんねんでなみだがでくるんです。
こどもがまだちつちやいと、きにかつこのの
しゆくだいで、わからへんとき、か
れても、わたしも字がわかりませんのであ
らねず、こどもには、こんなあかあちや

んがわるいなあつて、なんでもころのなかで
あやまつてまゐたんやもつとはようにべん
きようしてた。こどもにもおしえられ
たのにむかしは、つらいこといっぱいあつて、
口ではいいあらわせないくらゐやけど、そん
ななみをくぐりぬけてきたからこそ、いまの
わたしがあるとおもつてます。そやからわたしは
わたしじいんのために、おぼえはわるくて
せんせいたちにめいわくかけますけど、
がんばつてべんきようします。わたしはいま
たくさんのおしえてもらつて、字もよんだ
り、かいたりできるやうになつてきて、しあわせや。
せんせい、わたしこれからのしあわせのために
べんきようをがんばります。



公立の夜間中学校は、全国に35校あります。兵庫県内には3校あります。

戦争や差別などの理由で小学校や中学校を卒業することができなかった人たちが、子どもの時に学べなかった学習に取り組んでいます。

今まで生徒は、年ばいの人が多かったのですが、最近は様々な理由で日本に来た若い外国の人が増えています。



宗景正 写真集「夜間中学の在日外国人」から